

30年後の世界へー

ポスト 2050を 希望に 変える

東京大学東アジア藝文書院（East Asian Academy for New Liberal Arts, EAA）は2019年度から毎年、「30年後の世界へ」を共通テーマとしてこのオムニバス講義を開講し、様々な角度から「世界」を問うてきました。世界はわたしたちの外側にあるのではなく、わたしたちが世界を創っているのだと言えます。世界を問うとは、既成の価値を疑いながら未来に関与することです。問いは智慧を発動させ、その智慧を育むのが大学という場所です。この講義は大学の役割を行為的に表現し、**大学の新たな価値**を生み出す実験なのです。特に2023年度は「空気の価値化」という命題を学内外だけでなく社会と連携しながら問うてきました。

さて、30年後の世界はどうなっているのでしょうか。**気候変動**の影響を最小限に抑えるための目標として、多くの国々が炭素排出量実質ゼロ（**カーボン・ニュートラル**）実現の期限に定めているのが2050年です。しかしその実現がきわめて難しいことはいまや半ば公然の事実になりました。たとえ目標が達成されたとしてもそれで気候危機が解決されるわけではなく、わたしたちはその後も長期にわたって、自らの**文明が生み出した様々な災害**——自然災害、戦争、圧政、貧困など——の中で生きていかなければなりません。わたしたちは、21世紀の後半に向かって、長い危機の時代を生きていくこととなります。これこそは、「30年後の空気」が規定するわたしたち人類の基礎条件です。そこで、2024年度は「30年後」を越えて、この「**危機の空気/空気の危機**」の中から希望を見いだすべく、以下の三つの柱を中心に皆さんと議論したいと思います。

1. **復興の技法**。人は他と共同しながらつねに自らを変容させ、成長していきます。危機を変容や成長を促す好機であると考えらるなら、「**復興**」とは**人間の変容と成長のプロセスそのもの**であると言えるでしょう。危機の中からわたしたちはどのような復興のあり方を想像するのでしょうか。またテクノロジーはどのような役割を果たすべきでしょうか。
2. **ロゴスの複雑化**。世界は分断の時代に入ったと言われます。20世紀までの世界を支えてきた政治制度の枠組みは地殻変動のように長期にわたる大きな変革を被りつつあります。いまの世界を構成している政治のロゴスは十全なものではないのかも知れません。**世界をあらわす（表す/現す/著す）ロゴスを豊かにすることが不可欠**でしょう。
3. **惑星時代の人間**。人新世や**プラネタリー・バウンダリー**などの概念は、近代的な人間観の改変を促しています。「人間」とは何か？この終わりなき存在論的問いを、人間を棲まわせているこの地球という環境との連続の中で再び定義することは可能でしょうか。可能であるとして、それはいかにして可能になるのでしょうか。

「30年後の世界」に希望をもたらすのは、他ならぬわたしたち自身です。皆さんと「問い」を共にして、この講義を**ポスト2050に向けた希望**の出発点にしたいと思います。

2024年度 **S** semester

教養学部前期課程学術フロンティア講義
同後期課程「高度教養特殊講義（東アジア教養学）」

2024 S Semester

学術フロンティア講義

30年後の世界へー

ポスト2050を希望に変える

場所: 18号館ホール 曜限: 金曜5限

4月5日

ガイダンス

4月19日



レジリエンスと地域の復興

溝口 勝 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

4月26日



人類はこれからどのような食生活をしていくべきか——次世代栄養学とOne Earth Guardiansからの提言
高橋 伸一郎 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

5月3日



100年前の日仏交流と平和思想——「気象台」としての宗教学

伊達 聖伸 (東京大学大学院総合文化研究科)

5月10日



外人にかたりかけること——国際性(transnationality)の場面と異言語のかたりかけの政治
酒井 直樹 (コーネル大学アジア研究学科/東京大学東京カレッジ)

5月15日



復興の未来

羽藤 英二 (東京大学大学院工学系研究科)

5月24日



藻と人間：惑星サルベージとテラフォーミングの倫理

福永 真弓 (東京大学大学院新領域創成研究科)

6月7日



空間・技術・創造力——建築史からの示唆

野澤 俊太郎 (東京大学教養学部/東アジア藝文書院)

6月14日



人間復興と精神復興

中島 隆博 (東京大学東洋文化研究所)

6月21日



いま「東洋」と「近代」を考へて、未来に何をのぞめるだろう？

富澤 かな (東京大学大学院人文社会系研究科)

6月28日



分解の哲学——「食べる惑星」の脱領域的研究

藤原 辰史 (京都大学人文科学研究科)

7月5日



パンデミックを銘記する

岩川 ありさ (早稲田大学文学学術院)

7月12日



希望のロゴス——危機における「生」について人類の智慧が教えてくれること

石井 剛 (東京大学大学院総合文化研究科/東アジア藝文書院)

